

近畿支部会報2015年2月号

今年はずいぶん寒い日が続きますね。元旦も大雪で、京都市内でも雪が積もり、公共交通機関が乱れました。皆様は無事に日々をお過ごしでしょうか。2月の声を聞くと春が近い気がします。寒さも後しばらく、揃って温かい春を迎えたいですね。



先日、2人の日本人がイスラム国に拉致され、殺されるという痛ましい事件が起ってしまいました。ご本人たちの無念さ、ご家族の方のつらい気持ちに対して、どのような声をかけられるのか、言葉が見つかりません。そんな中で、後藤さんと面識のあるテレビのアナウンサーが、「彼の死に対して、彼が求めていたものは何か、彼は何を伝えようとしていたのかを一人ひとりが考える事、自分に出来る事を引き継いでいくこと、、、」と言われていたのが心にしみています。

さて、支部ではモンゴルの方の障害児教育研修受け入れの準備を進めています。この事に対して、非常に多くの方が協力して下さっています。その中に佐藤紀子さんという方がいられます。1998年から大阪モンゴル国名誉領事を14年務められ、今は、モンゴル国名誉文化大使として、又、日本モンゴル文化経済交流協会会長として、大阪に事務所を構え、日本とモンゴルの懸け橋としてお仕事をなさっています。モンゴルには既に230回程行かれ、今も年に10回は行っているという事です。又、佐藤様は日本における歯科衛生士の草分けであり、長年モンゴルの子供たちの歯の健康に関わって来られました。歯ブラシさえ満足にないモンゴルで、始めは口をぐっと結んで開けようとしなかった知的障害児たちが、長年の関わりの中で、今では笑顔で口を開けているのです。そんな子供たちの写真を見て、「関わる」とはどういう事かを教えられた思いで、私はそれ程真剣に人と関わってきただろうかと反省することしきりで、身の引き締まる思いでした。いろんな良い出会いで人生を豊かにしていける事に、感謝の今日この頃です。

今回の会報は、次の内容でお届けします。

- | | |
|----------------|--------------------------|
| 1、例会報告 | 支部長 |
| 2、トラベル報告 | 出会いを繋いで 京都市 H. T |
| 3、トラベラー受け入れ報告 | 2組のトラベラー 和泉市 A. K |
| | 控えめなトラベラー 大津市 S. T |
| 4、会員交流「北から南から」 | 障害のある人に関する日本での研修会 モンゴル H |
| 5、お知らせとお願い | 支部長 |

1、例会報告

支部長

日時：2015年2月7日(土) 場所：ホテル馬酔木奈良駅前店

出席者：本部役員2名 支部役員3名 一般会員6名 会員外1名 計12名

定まらない天気の日が続いていますが、当日はばっちり良い天気になりました。昼前に皆集まり、早速メーリングリストの話し合い。そして、昼食をしながらの自己紹介、いつもの決まったメンバー以外

に珍しい会員の参加が多く、いろんな話が飛び出して、盛り上がりました。続いて、モンゴルの方の障害児教育研修の受け入れ態勢とその国内会議への提案についての討議となりました。いつもは3時頃に終わるのに、その日は盛り上がって4時まで和気あいあいと話が続きました。その後希望者は奈良県立美術館へ「富本憲吉展」を見に行き、全員老人無料という特典を受けてのラッキーな入場で美術鑑賞を楽しみました。



討議

1、メーリングリストについて、

今のメーリングリスト規定より yahoo に関する項目を削除して、名前を皆が使っているグループメール規約と改める。

2、モンゴルの方の現状報告と受け入れ態勢について話し合った後、この件についての国内会議への提案について討議し、原案通り国内会議へ議案として提案することになりました。

モンゴルの障害児教育研修について（国内会議への議題案）

提案者 日本サーバス近畿支部

提案目的

- 1、主催団体を日本サーバス、世話役支部を日本サーバス近畿支部とする。
- 2、モンゴルの方の障害児教育研修について、その滞在費用を援助するため、日本サーバスとして義援金を集める。

経過

2013年秋のサーバス東アジア会議で、モンゴルのサーバス会員 H さんより「モンゴルでは障害児が教育の枠外に置かれ、みじめな状態にある。障害児教育等について日本に学びたい」と話された。2014年の夏、Hi がモンゴルへ行き H さんも日本に来られて、お互いの国の障害児の置かれている状態について、理解しあった。H さんが来られた時、障害児関係機関を見学し、関係者に会って話を聞いた。「ぜひ、モンゴルの関係者で研修に来たい。帰れば政府と話をする」と言って、帰国された。そして、10人で来られることに決まった。当初、モンゴルの文部省と話が進んでいて、文部省としての研修を予定されていたが、政治が上手くいかず、政府の補助は全くあてに出来なくなり、全員、自費で来られることになった。1ヶ月2万円でも生活出来るモンゴルの人にとって、往復の飛行機代だけでも多額の出費である。そのようにしてさえも障害児の教育を進めようという熱意に対して、出来るだけの協力をしたい。

滞在中はサーバスホストの家庭滞在となり、ホテル代は不要であるが、日々の交通費、昼食代、観光される時の拝観料がある。又、モンゴルの方、研修に協力した者、サーバス会員等で歓迎交流会も予定している。以上の事から滞在費についても、出来るだけの費用援助をしたい。

この教育研修を実施するにあたり、費用面ならず、見学や講演、又、モンゴルの方の来日のためのビザ取得等についても、非常に多くの方に善意の協力を頂いています。それに対して、主催団体を日本サーバス近畿支部ではなく、日本サーバスとしてほしい。近畿支部は世話役支部として、出来るだけの労をとりたいと思っています。

参加者名簿

	所属団体	地位	性別	年齢
1	教育科学省教育研究所	副主任	女	45
2	教育科学省教育研究所	特殊教育課程研究員	女	41
3	教員教育センター	神話学员	女	50
4	障害のある子供を持つ保護者協会	子供発達センター教員	女	34
5	障害のある子供を持つ保護者協会	民生委員 指導的保護者	男	46
6	自閉症連絡会	保護者（父）	男	32
7	自閉症連絡会	保護者（母）	女	32
8	自閉症連絡会	自閉症児童	男	9
9	障害に寄り添う特別学校	学校経営者	女	49
10	障害に寄り添う特別学校	教員	女	49

日程

2015年5月8～15日の方と8～18日の方になる。

8日	来日（8日成田着、夜行バスで9日早朝京都着）			
9日	歓迎交流会			
10～14日	研修			
	1	大阪府立富田林養護学校	大阪	
	2	金剛コロニー	大阪	
	3	大阪ドーンセンター	大阪	モンゴル・日本障害児親の懇談会
	4	大阪府立盲学校	大阪	
	5	ともがき	大阪	
	6	止揚学園	滋賀	
	7	教育総合相談センター	京都	
	8	普通小・中学校	京都	障害児学級併設の所
15日	15日組の離日（14日夜行バスで成田に移動）			

- ・18日組は 15～17日 観光・ショッピング 18日 離日（17日夜行バスで成田に移動）
- ・1と2、3と4、7と8は同じ日に行う。
- ・ともがきで障害児に対する学校システムや、自閉症等障害について講演を行う。

予想される滞在中の費用 37万円

交通費 25万円（1日2500円として10日10人分）

昼食代 10万円（1日1000円として10日10人分）

歓迎交流会 1万円（モンゴルの人昼食代10人分）

雑費 1万円

- ・早く帰られる方が未定のため、費用は10人分として計算

募金送り先
後ほど決定

以上

2、トラベル報告

出合いを繋いで

元サーバス近畿支部会員、今は関東支部会員の H さんが仕事でフィリピンのマニラにいられます。マニラから、「めっちゃ、きれいですよ」とメールが来ました。聞くと 3 月までは多分マニラにいるとか。行かない手はないと、早速フィリピンのホストリストをもらいました。2011 年以降発行されていず休眠状態です。会員 9 人にメールを出した所、1 人だけ返事が返ってきました。

1 月 12~26 日、主人、妹、私の 3 人で行きました。ホテルは最初の 3 日間だけマニラに予約。出発の少し前、H さんより 1 月 15~19 日、ローマ法王がマニラに来るとメールがあり、それではお目にかかれるかと期待していったものの、到着した日は既にローマ法王歓迎準備のために交通規制がかけられていて、空港からホテルへのタクシーは渋滞で動かず、何と通常の 5 倍の料金になったのでした。でも、ホテルに着くと H さんがすぐ来てくれて「ああ嬉し！」無事に乾杯となりました。

13 日は世界遺産であるサンオウガスチン教会を始めマニラ市内観光。ここでもマニラ大聖堂は、法王歓迎準備のため入れずでした。

14 日は船に乗って、軍事的に重要な位置を占めていたコレヒドール島へ。マニラの雑踏から離れて、のんびりと良い気分でした。港からの帰りの道がこれまた道路規制で混んでいたため、ホテルへは 1 時間かかって歩いて帰りました。ホテルに 2 泊の延長をお願いした所、1 泊は OK だがそれ以上は取れないとの事、ローマ法王がアジアに来るのはフィリピンだけ、法王の滞在期間中、国内外から多くの訪問者があるからでしょう（600 万人来たそうです）。この期間、フィリピンは祝日で、仕事は休みです。H さんがマニラを逃れて遊びに行こうと誘ってくれたので、郊外へ出かけました。



15 日はスービックサファリへ、16 日はアンヘレスのヒナツゴ火山でトレッキング。そこには原住民の部落があり、彼らは電気なし、水は井戸で得て、原始的な自給自足の生活をしています。木に登ってココナッツを取ってくれたのですが、その速さはサルもビックリというものでした。

タガイタイのサーバス会員 S さんには 19 日から行くと言っていたのですが、今、マニラに帰っても動きが取れないと、H さんが S さんに電話をしてくれた所、17 日の土曜日からでもよいと言って下さって、19 日まで 3 泊お世話になりました。タガイタイは高知にあるため涼しく、人気の観光地です。1 日はビーチで泳いだり、船で沖へ行ったり、又、S さんの友達がバーベキューを用意してくれて海を楽しみました。後の 1 日は観光の目玉、タール湖とタール火山に行きました。

京都市 H.T



20 日からは私たちだけで行動。バスやジブニー（ジープを改良した乗り物）はわかりにくいので、フィリピンに来た時にはツアーを利用しようと思っていたのですが、フィリピンにも慣れてきて、バスと船を乗り継いで、白砂のビーチで知られる人気の観光地、プエルトガレラに行きました。S さんの友達が経営するホテルがあって、ラッキーでした。ホテルのツアーを利用して、船で島めぐり、海の洞窟やスキューバダイビング、美味しい魚料理等、ビーチリゾートを堪能しました。



21 日夜にマニラに帰り、22 日は急流下りで有名なバクサンパンへ。細い丸太のボートに乗って行くのですが、丁度乾季で水量が少なく、岩があたりすると、ボートマンが川に入って、ボートを持ち上げるようにして進めるのです。極めつけは終点の滝、何とかいかに乗って滝の奥まで侵入です。一杯水を浴びるので、カメラが濡れないように必死でした。

23 日は、郊外の芸術村、アンゴノへ。ここが 1 番苦労でしたが、やっと探して乗ったジブニーで、幸運にも善良なフィリピン青年に会い、アンゴノでは彼がガイドをしてくれ、個性的な美術館を楽しみました。

24 日、そろそろ旅行も最終局面、遠出に疲れてきたので、マニラのパリと言われるマカティに行きました。駅を降りるや洗練された清潔な町、マニラの他の場所とは全く違う雰囲気です。アヤラ博物館を楽しんだ後、町をぶらぶらしてキアポに行きました。キアポは駅を降りるやごちゃごちゃした町、全く対照的です。キアポ教会やモスク、ひしめく屋台ショップ、これはこれで、又楽しいものでした。



25 日はローマ法王のために見られなかった市内の観光地を見た後、空港近くのホテルに移動。そこではお祭りがあって、何ともラッキーでした。

初めてのフィリピンでしたが、一言でいうと面白い。ヨーロッパは立派な世界遺産がたくさんあるけれど、来る日も来る日もお城や教会では飽きてくる。それに比べてフィリピンは山あり、海あり、町ありと多彩です。料理も美味しいし、物価も安い、旅行のしにくさを別にすれば、言う事なしです。

3、トラベラー受入れ報告

2 組のトラベラー

和泉市 A.K

P M & J R(60才)M Dec 30-Jan 1. Copenhagen Denmark

とても寒い年末でした。2 人は、泊まるホテルがなく困っていたので、H さんのホスト募集に連絡しました。東京から京都を経由して、我が家に来ました。その時には、J は 3 9 度の発熱があり、次の日は一日中寝ていました。P は、大阪市内へひとりで出かけ、帰宅後、年越しそば、紅白歌合戦を私達と一緒に見ながらのんびりしました。元旦は、お雑煮とおせちを食べて、駅に送って行きました。新幹線で京都から広島へ移動するようでした。



2日朝、私達は彼らの置き土産インフルエンザA型をもらいました。
帰国後、Pが発熱したそうです。お礼メールにありました。

K H R(58)M, D B J(?)F, K-S R(28)M, S R(24)F, Jan 29-Feb 2. Korea



家族4人で泊まりたいとメールで連絡がありました。ピーチが大幅に遅れたため、夜遅く関空に着き電車がないと電話がありました。あわてて夫が車で迎えに行きました。印象はとっても仲良し家族で、初めてのサーバス旅行に我が家へ来ました。四人なので二部屋を用意しましたが、一緒に過ごしたいと布団を移動させていました。有馬温泉、なんば、大阪市内観光とショッピングを楽しんでいました。

KHRとDBJは、韓国語・漢字が読める、K-SRは、韓国語・日本語、SRは、韓国語・英語・日本語をちょっと話しました。

DBJが、大学で陶器とお茶の先生をしており、お茶に興味があり、宇治に一緒に行きました。いろんなお店を見たり、試飲したり買い物をしました。宇治市営茶室「対鳳庵」では、お茶の先生からお話を直接して頂きました。お弟子さんに韓国語を話される方がいらっしやいました。練り香を見せていただきました。韓国でも抹茶・茶筌を時々使うそうです。知らなかった私たちはちょっとびっくり。

和食の鍋料理、居酒屋でちょっと一杯飲み、とっても、日本を楽しんでいました。

控えめなトラベラー

大津市 S.T

期間：2014年10月2日～4日 Australia 4名

L G(♀)50y、R G(♀)11y、C S(♀)51y、E S(♀)11y

☆案内した場所-----中華料理店(王将)

8月初旬に、Lさんより、直接、私にE-mailが入りLOIも添付されていました。その内容は、「友達Cと私と二人の娘合わせて4人は、10月2日ごろ京都のへんに2泊のServas Home stayを探しております。Sさん側にとっては、4人の客はとても大変だと思います。しかし、もし、泊まっては無理だと決めたら、そのように仰って下さい。突然、このようなお願いをして本当に申し訳ございませんがお返事をお待ちしております」とのこと。私は、こういった控えめな表現に心がうたれ、即OKの返信をし実現したのです。オーストラリアのママ友のお知り合いで、もちろんサーバスのホスト会員で、子供の学校が休みの期間に訪日をしようと4人で決められたようです。今回の訪日は、短期間のため、滋賀県の田舎を案内することは控えました。帰られる時、いつものようにJR堅田駅まで送りました。その時、①娘さん二人から、「Sさん、手紙送ってくださいね」と言われました。②私は、10年以内にお逢いしましょう。と言いましたところ、快諾を得ました。上述の①で約束した手紙は、写真を同封し10月中旬に郵送いたしました。あとは、10年以内に再会することを楽しみにしております。



期 間： 2015年5月8～15日と8～18日のグループ

場 所： 大阪、京都

目 的： 障害のある子供たちの制度を理解すること

- 目 標： 日本の経験から学ぶ
- ・ 学校教育（特別学校と通常学校）
 - ・ 国及び地方公共団体を含む介護活動の組織
 - ・ 保護者の団体とその活動

障・害・の・あ・る・子・供・た・ち・を・考・え・る・理・由

モンゴルはこの25年間、社会主義から自由経済体制へと移行しています。そして その事は政治の中枢で自国の体制を創りあげることなく、“東洋”から“西洋”へ 移行することを意味しています。それ故、私たちは、経済だけでなくまた政策、組織 そしてその実行にあたって多くの困難に直面しています。例えば、学校教育はその教育終了を10年、11年、12年と根本的な検討もなしに数回変更してきました。教育の質は大きな問題で、例えば、TIMSS (International Test of Education) によれば、モンゴルの数学教育の水準は35%で、科学教育の水準は28%となっています。

障害者に対する教育は見捨てられてきた分野で、政府はこの25年間、経済的危機や政策の失敗で注意を払ってきませんでした。障害者のための学校に対する政府の支援は経済面、政策面、そしてその遂行について十分ではありません。

障害のある子どもたちについてのいくつかの事実があります。

- ・ 障害のある子どもたちの80%は、貧困家庭と脆弱な家庭の子どもたちです。
- ・ 障害のある子どもたちに対する社会の気配りは温かいものではありません。
- ・ 障害のある子どもたちに対する苛め。
- ・ 保護者は自分たちの子どもが障害のある子どもたちと遊んだり、友達になることを嫌います。
- ・ 学校では、どのように障害のある子どもたちを支援するか教えません。
- ・ 障害のある子どもたちの両親の殆どは、彼らの子どもを隠し、外へ出ていくことを許しません。
- ・ 障害児教育にたずさわる教員について、事前の教育がありません。教育大学で、2014年から1コースあるのみです。
- ・ セラピスト（療法士）の不足。国の段階で僅か20名のセラピストが職に就いているだけです。モンゴルはこの20年間、セラピストの専門教育を受けさせるために学生を海外へ派遣することはできませんでした。
- ・ 障害児教育に精通した専門家が教育省にはいません。
- ・ モンゴルには、障害児のための学校は僅か6校、幼稚園は2園だけあります。そして、その全てがウランバートルにあり、地方にはありません。
 - ・ 聴覚障害2 ・ 視覚障害2 ・ 精神障害2 ・ 幼稚園2
- ・ 障害児をもつ保護者の団体が2010年にウランバートルに設立されました。その支部が地方で活動しています。
- ・ 自閉症についての団体が2014年に設立されました。
- ・ 保護者の一人は職がありません。

- ・ 保護者のほとんどが辺鄙なゲルに住んでいて、電気、水道、ガスなどはありません。
- ・ 障害児学校に勤務する90%の教員はそのための教育を受けていません。
- ・ 障害児教育の基準はまだありません。

日・本・を・訪・問・し・た・い・理・由・

モンゴルは、社会主義体制が崩壊した後、様々な活動を通して、移行期間の間のこの20年間、日本と緊密な関係を培ってきました。日本政府はモンゴルの発展のために、重要な支援をしてきました。JICAは教育について、いくつかのプロジェクトを実行に移してきました。そして、それは教育方法の改善に重要な結果をもたらしました。

モンゴルは世界に門戸を開きました、特に日本人に対して親友として尊敬すべく歓迎しています。そして同時に、高品質の教育を身につけようと多くのモンゴルの人々は日本で研究したいと思っています。私は幸いにも日本で学んだ者の一人であります。

私は2000年から2006年にかけて、広島大学で学び、卒業し、教育行政の博士号を取得しました。それ故、モンゴルと日本との架け橋として寄与したいと思っています。日本から帰国した後、私はアメリカのPeace Corps、日本のSave the Children、そしてJICAなどで働いてきました。

“Save the Children” にいる時は、“Children with Disabilities”(CWD) 計画について働いてきました。この計画は“Association of Parents with Children with Disabilities”(APDC)を設立することに目標をおきました。その時から、私はCWD、特に彼らの教育について関与してきました。機会があればいつでも、この部門を改善していくことを助け、支援していきたいと思えます。

そういう訳で、Hさんが障害児教育で働いていることを知ったとき、モンゴルへ来ることを頼みました。この分野で働く重要な人々と連絡をとることに彼女に支援していただいたことを深く感謝しております。私たちが日本を訪れた時、皆さん全てにお会いする機会をもつことは名誉なことです。

私はこの度の訪問について、教育科学省の戦略、政策、計画の長である、Mrs. Nにお話ししました。彼女はこの分野に対するHさんの援助と支援について大いに感謝しています。

新しいモンゴル政府、特に日本の大学を卒業した大臣はモンゴルと日本との間の教育における関係を高めることを強調しております。

障害児教育、日本でのCWDに対する貢献は、私がCWDの組織を設立することにおいて多くの問題に直面して以来、モンゴルでの近代的な組織として尊敬されています。それで、私たちは、日本政府、国民、教師、子どもたちや保護者がどのようにCWDに接し、教育し、世話をするのか学びたいと思っております。私たちは政府と民間の団体から成るチームで、CWDの発展、発達を高めていくためにどのようにチームとして共に働いていけばいいのか日本から学びたいと思っております。

最も大切なことはCWDの明るい未来のために共に力を合わせようということです。

5、お知らせとお願い

支部長

* 4月4日(土)、または5日(日)、どちらか天気の良い日にサーバスお楽しみ例会「和歌山城の桜を楽しもう」を計画しています。和歌山の会員、Nさんが美味しいお店も紹介して下さい、後は良いお天気になることを祈るだけです。詳しい案内は後ほどいたしますので、宜しくご予約下さい。

*3年に1回開催されるサーバス国際会議は2015年10月10日(土)~10月16日(金) New ZealandのAotearoa(北島)で行われます。それと前後して同じくNew Zealandで国際サーバスのユースミーティングも開かれます。色んな会議に参加して世界に友達を作って下さい。

*2015年度サーバス年会費(一般3000円学生2000円休会者B1500円)を次の口座へ宜しくお願いします。口座番号00990-6-33645 加入者名 日本サーバス近畿支部

以上